

人不適応型」がほとんどで、これらの児童の特徴として、非生産的で反社会性が強く、個人的に十分な満足感が得られていない傾向を示している。また性格プロフィールから判断されることは非社会的で劣等感を持ち、情緒も不安定な状態にあることがわかった。これらの性格は環境、特に人間関係によってつくられたものが多いので、教師と父母と友人などの協力によって、ある程度まで性格を変えることも不可能ではないと考え、次のような実践をした。

イ 生活指導の中で

- ・「生活個表」により一月の生活行動を記録し指導する。(省略)
- ・一日一回以上必ず良い面を見つけて賞賛する。(省略)
- ・各教科等の指導の中で
 - ・社交性を高めるために(省略)
 - ・劣等感を取り除くために(省略)
 - ・情緒を安定させるために(省略)
- ② 学習態度を変える
 - 毎時の学習態度で劣っている面を一人ずつ表にし、約束ごとをつくって習慣化されるまで繰り返し指導した。(表と指導計画は省略)
- (3) 学習面の治療
 - ① 内容の精選と目標分析
 - 今までの授業は、中位の児童に焦点を合わせて学習目標を設定してきたが「教育評価」の研究により、学級全員が達成できるようにするため、最下位の児童に焦点をしばって学習目標を設定する。

資料3 目標分析

内容の要素	認 知				情 意		時 間	本 時 の 目 標	下 位 目 標		
	知識・理解 用語記号	原理法則 概念	技 能 計算操作	分 析 合 成 統合	変 換 応 用	興味関心				創造工夫	成 就 態 度
平行四辺形の面積	○	○	○				1	1cmの方眼紙にかかれた平行四辺形を長方形に等積変形して面積を求めることができる。	(1)平行四辺形の図形を分解して長方形に合成できる。 (2)長方形のたてと横の長さを調べ面積を求めることができる。		
求積公式	○	○					2	平行四辺形の面積を求める公式をみいだすことができる。	(1)平行四辺形を面積を変えないで長方形に直すことができる。 (2)底辺と高さから公式をつくることができる。		
公式適用			○		○		3	公式を適用して平行四辺形の面積を求めることができる。	(1)底辺と高さをみつけることができる。 (2)公式にあてはめて面積を求めることができる。		
三角形の面積	○	○	○				4	1cmの方眼紙にかかれた三角形を2つならべて平行四辺形をつくる面積を求めることができる。	(1)合同三角形を2つならべて平行四辺形をつくる。 (2)平行四辺形の面積を2でわって三角形の面積を求めることができる。		
求積公式	○	○					5	三角形の面積を求める公式をみいだすことができる。	(1)三角形を2つならべて平行四辺形をつくる。 (2)底辺と高さから公式をつくることができる。		
公式適用(練習1)			○		○		6	公式を適用して三角形の面積を求めることができる。	(1)底辺と高さをみつけることができる。 (2)公式にあてはめて面積を求めることができる。		

定するようにした。そのために、下位目標を設定し、本時のめあてが達成されるためには最低これだけできるよりにと行動目標を示し、自己評価もできるよりに基準を明確にした。(資料3)

④ 個別指導をとり入れた指導過程

一斉指導の中で基礎学力の著しく劣っている不振児を救うことはむずかしいので、特に第四段階の「深める」ところで、複式的授業を進めることにした。(資料4)

「解決する」段階での評価により、本時のめあてが達成された児童は次の「深める」段階で類似、応用、発展的問題へと個人またはグループごとに挑戦し、本時のめあてをさらに深めたり

資料4

7. 本時の目標
 ① 1cmの方眼紙にかかれた平行四辺形を長方形に等積変形して、面積を求めることができる。
 8. 指導過程

下位目標
 ① 平行四辺形を分解して長方形に合成できる。
 ② 長方形のたてと横の長さを調べ面積を求めることができる。

段階	学習内容	活動	時間	指導上の留意点	評価
1. めあてをつかむ	問題を見て本時のめあてをつかむ	① 平行四辺形を赤色の人びでできる。 ② ノートに本時のめあて「平行四辺形の面積を求めることができる」と書く。	5分	○ 実用1cmの方眼紙に書いてある平行四辺形を赤色に塗ることで、面積を求めることができる。	1. 本時のめあてが「平行四辺形の面積を求めること」であることをつかめたか。(ノート・発声)
3. 解決する	予想し、平行四辺形の面積を求める	○ 予想したことを発表する。 ・ ますを変える方法 ・ 長方形に等積変形する方法 ○ 平行四辺形を分解して長方形に合成する。	15分	○ 「ます」を変える方法と長方形に等積変形する方法を近似的に考え、長方形に等積変形して平行四辺形の面積を求める方法より簡単で確実な方法をつかませる。 ○ 長方形に等積変形する方法は、いくつも考えられるが、どれも面積にはかわらないことを、3つの例を出して理解させる。 ① 直角三角形に切る方法 ② 台形に切る方法 ③ 横に切る方法	3. 長方形に等積変形して、面積を求めることができるか。(ノート)
4. 応用する	練習問題をとく	○ 平行四辺形を切りぬく。 ○ たてに2つに切つて長方形をつくる。 ○ 長方形の面積を求める。	10分	○ 練習では、平行四辺形のままだと面積が求められないことをおさえ、別の形の長方形に等積変形して長方形の面積を求めることを図形を使って個別指導により理解させる。 ○ できる児童には、いろいろな形の平行四辺形の面積を求めさせ、より確実に理解を深めさせる。	4. の1)の問題を解き、自己たしかめで評価できたか。(サインポス)

④ 自己評価を促す学習活動

教師が一方的に評価をしながら指導するよりも、児童が自分で学習のめあてを持って、段階ごとにそれが達成されたかどうか自己評価しながら学習を進めるようにした方が、より効果的に目標達成ができる。それによって「何が」「どこが」「なぜ」「どうすればよいか」などを考えさせ、フィードバックしたり、アドバイスを与えたり、